

然と文化科活動記録「宝塚巡礼街道散策」

日時	2025年5月9日（金）9：00～15：00（曇りのち雨）	担当者
場所	中山観音駅～中山寺散策～市杵島姫神社～（中山荘園古墳遠望）～売布神社～清荒神参道～清荒神清澄寺散策～清荒神解散	文・写真 寺尾 修
備考	参加者数 1班 20名、2班 17名、3班 14名、4班 12名、 合計 63名	

前日 17 時の天気予報が午後 70% となり本来ならば中止のところ、降雨開始が午後とのことで開催が決まった。（先週も企画委員会担当の行事が雨天中止となったことも関連。）

★散策ルート概要



＜中山寺＞山号は紫雲山聖徳太子創建（真言宗）現在の伽藍は豊臣秀頼の再建によるもの。西国三十三箇所の札所として安産のお守りとして信仰が厚い。本尊の十一面観音、木造聖徳太子坐像は国の重要文化財となっている。最近五重塔も再建され寺院としての風格が更にアップしている。



五重塔

＜市杵島姫神社＞

創建は慶長 8 年（1603）で、祭神は市杵島姫命（いちきしまひめみこと）。元は中山寺の寺域にあったものを、明治 4 年に神仏分離令でこの地に移された。宮島の厳島神社と同じ祭神で商売・芸能の神として信仰されており、弁財天信仰とも結びついている。

＜中山荘園古墳＞

八角形を意識して造られた、珍しい形の古墳で国の史跡に指定されている。八角形の古墳は、奈良の飛鳥では天皇陵と考えられる事が多いがこの地域になぜ、このような形をした古墳が造られたのかは不詳。

＜売布神社＞

延喜式に記載された由緒正しき神社で食物と衣服の神様を祭っている。昔、里人が飢饉に苦しんでいた時、大国主命の御子である高比売神と天雅彦神（あめのわかひこかみ）が麻布織物技術と稲作の技術を教えて、飢饉から救われた事から 2 神を祀った。江戸時代には貴船大明神と呼ばれていたが、大岡忠相の命を受けて並河誠所が調査した結果「売布神社」であることを確認された。

＜清荒神清澄寺＞

宇多天皇から「日本一清荒神」との称号を与えられ、現在も「竈の神様」として篤い信仰を得ている神仏習合の寺。本尊は室町時代の大日如来坐像で国の重要文化財に指定されている。旧寺地は売布きよしが丘に有ったが江戸時代に現在の地に移った。清荒神本堂奥には、清澄寺法主と交遊があった南画家・富岡鉄斎の作品が常設展示されている鉄斎美術館がある。

★所見

中山寺では僧侶からの詳しい案内で楽しく過ごせた。午後は雨の中ほぼ傘も差さずに丁寧にガイドして頂き有難かった。また、企画委員会幹事としては、雨にもかかわらず多数のご参加を頂き、感謝に耐えません。